



西浮通信

令和6年6月28日
NO. 404
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

学校行事で育つ西浮っ子

副校長 富田 暁子

蒸し暑さが増し、梅雨の季節となりました。子供たちは目下、西うきフェスティバルに向けて学級ごとに準備に取り組んでいます。教育目標にある「自ら育つ子」を育てるため、大切にしている児童会行事の一つです。学校や学年という大きな集団で協力し、よりよい人間関係を築くための体験的な活動を学校行事と言い、西うきフェスティバルは「学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりする」ことを目的としています。また、学校行事には「主体的に役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い、実践しながら望ましい人間関係をつくること」も目的にあります。

6月6日～8日に岩井自然体験教室に5年生と一緒に行ってきました。これも宿泊的行事という学校行事で、大変充実したものとなりました。

宿泊的行事は子供たちが受け身の姿勢では、集団生活がうまくいきません。それぞれが役割を果たし、友達のために仕事をし、友達と共に身の回りのことや次の活動の準備をしなければなりません。自分はやり終わっているから関係ない、では結局、グループや学年全体に迷惑がかかってしまいます。活動についての説明を自分事として聞き、自らが主体となって動く大切さに気づき、その自覚が徐々に行動に現われた5年生でした。宿泊の2日目も過ぎると、しおりをしっかり読んで持ち物を確認する、班の友達も一緒にやらねばならないことを終えたか確認する、自分に余裕があるから手を貸してあげる、など互いに助け合いながら集団生活を送るように変化していき、その姿は目を見張る成長ぶりでした。



自分と友達の1対1の関係に収まっていた子供たちが、グループや学年との関係を認識し始めた結果、進んで友達に声をかけたり助け合ったりするようになったのです。更に、自分以外の友達の役割や宿舎の方々とのかかわりが分かってきて、面倒に思ってもやり切る、周りで声をかけなくても終わる、といった当事者意識が育っていきました。いつもと違う環境で、目に見えている日常の範囲の判断から、直接かかわっていない広いつながりの中でも役割を果たす大切さに気づき、自主性をもってよりよい集団に変化する体験をしてきました。



このように、よりよい自分やよりよい人間関係、よりよい社会を創ろうとする力を養うため、教育活動を実施しています。

もうすぐ長い夏休みになります。普段とは異なる人とのかかわりが増えるかもしれません。是非、ご家庭で、地域で、社会の一員としてよりよい関係づくりができる機会としてほしいと願っています。

【学校閉庁日のお知らせ】

学校教職員の働き方改革の取組として、西浮間小学校では、8月9日（金）～8月20日（火）は学校閉庁日となっております。教職員は出勤しておりません。ご理解ご協力をお願いいたします。